

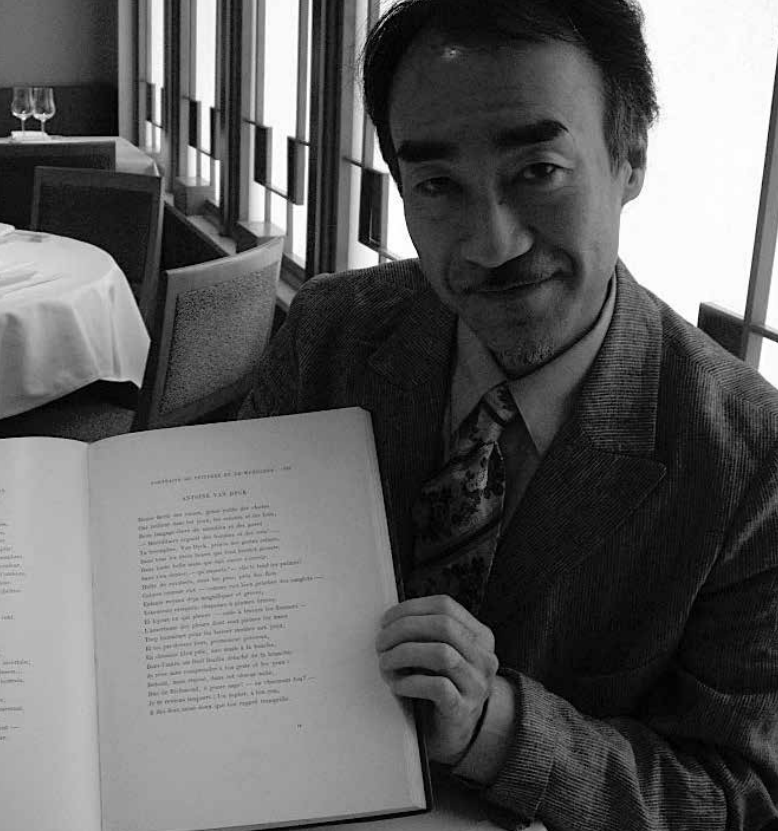
「ミュッセ」で見える楽譜のいま

連載第8回 ミュッセインタビュー

楽譜収集家
音楽オーガナイザー

幅至(はばいたる)氏

長年にわたりアンティーク楽譜の収集をし、歴史的にも音楽的にも貴重なたくさんのお楽譜を集めてきた幅氏。楽譜が音楽にとって貴重な情報源であることは今も昔も変わらぬ。楽譜に接近してみることで、より豊かな音楽の側面が見えてくるのではないだろうか。



Profile

幅至(はば・いたる)音楽オーガナイザー、アンティーク楽譜収集家。1959年東京生まれ。画家・イラストレーターであった父のもとで幼少より芸術全般に興味を持つ。小学校時代から慣れ親しんだピアノ音楽を入り口にあらゆるジャンルの音楽に興味の対象を広げてゆく。フランスのパリ大学及び大学院(ソルボンヌ新第3大)にて現代言語・英語学を専攻。現在、音楽誌「ストリング」『レッスンの友』などで楽譜を紹介し、楽曲、レパートリーの拡充に心血を注いでいる。最近では某テレビ番組の楽譜鑑定も引き受けている。

—— 楽譜収集という活動には、今までなじみがありませんでした。どのようにして本格的に楽譜を集められるようになったのですか。

子どもの頃ピアノ教室に通っていたので音楽がだんだんと好きになり、家でもLPレコードをたくさん聴いていました。だけど、教則本で弾く曲と家で聴く音楽は何か違うと感じていた。そこで単純に「世界中のピアノ曲が聞きたい」と思い、レコードをたくさん聴くうちに、いろいろな演奏家、いろいろな演奏のスタイルがあるというのを知り、自分では弾けなくてもその曲がどうなっているのか見たいと思うようになりました。

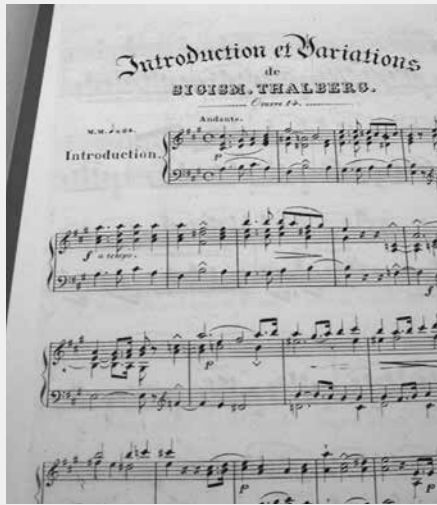


コルトーのサイン入り生写真や、C. シューマンの演奏会広告など貴重な写真

20歳のときに初めてヨーロッパに行き、パリのセーヌ川沿いに有名な楽譜屋がありましたから、そこに通うようになったのです。それが入り口で、楽譜コレクターの人脈ができてきました。

—— どのような視点で楽譜を選んできたのですか。

歴史的に珍しいものや初版だけが欲しいわけではありません。ある曲に出会って気になったら、徹底的にその人の作品を調べ、直感的に面白そうな作品を数曲買う。それが面白ければ、周辺の関わりのある作曲家、同時代のもも買っていきます。研究しているというより、もっと知りたいという単純な好奇心に突き動かされているのです。



タールベルク：「ドン・ジョヴァンニ」のテーマによる変奏曲の初版。繊細なイラストの表紙をめくって楽譜の冒頭が登場する。



ヨーロッパには古い楽譜、知られざる作品も多く残されているのですね。

例えば、自分の先生そのまた先生から、ある作品が代々受け継がれることがよくあります。先生から演奏技術も習うが、レパートリーも習うのです。

解釈本というの脈々と存在してきました。例えばベートーヴェンの作品について、ベートーヴェンはどう弾いたか、それをチェルニーはどの受け取ったかなど、何十種類もの

解釈本があります。それを見ると、どういう時代の流行

があり、大先輩たちがどんな工夫をしてきたのがわかる。僕は20種類くらい持っていますが、ベートーヴェンもチェルニーも大きな音楽の流れの中にいることを感しています。

楽譜を演奏家に紹介したり、サロンコンサートをプロデュースする活動を通じて、日本の音楽状況をどのように見えていますか。

日本には今たくさんホールがあり、昔より簡単に留学ができ、演奏のレベルも高い。いい意味で礎がある。しかし、音楽をもっと広いものとしてとらえたいと

常々思っています。その作品が演奏されていた時代背景や場所、言語やニュアンスといった、もっと広いものを音楽は含んでいますよね。それを再構築して演奏してみたい。

演奏家にとっては、コンクールやリサイタル

ルなど時間的制約があるかもしれないが、目と耳、指で作品に接して弾いて楽しいという自分の感覚を大切にしたい。人は弾かないけど自分はこれを弾くというレパートリーを持っていけば、もっと面白いと思います。弾く側も聴く側も、多様性をもっと楽しむ時代だと思うのです。

「自身の活動をさらにどのように展開していきたいですか。」

僕は楽譜コレクターですが、音楽をどうプロデュースするかという方に興味があります。音楽は、広い意味で喜びのために存在しているはず。今われわれが作曲家や演奏家と呼ぶ人たちも、根本的には「音楽家」ですよ。リストは1850年代に演奏はやめてしまいましたが、言ってみればシンガーソングライターであり、リストの弟子と言われたハンス・フォン・ビューローも指揮者としても有名だった。総合的な「音楽家」であり、たまたまピアノも弾けたというに過ぎません。もっと

広いものの一部として



インタビューを行ったレストラン Chinois (シノワ) 渋谷駅ハチ公口から徒歩5分 TEL: 03-5457-2412 料理と最高にマッチする様々なワインを楽しむことができ、ゆったりとした吹き抜ける空間を持つ店内では、幅氏がプロデュースするサロン・コンサートを開催している。壁には、幅氏から譲られたモーツァルトのオペラ「魔笛」の1820年代ピアノ編曲楽譜が飾られている。 URL <http://www.chinois.jp>

ミュージセ紹介は66ページへ



て、大らかに音楽を楽しむ状況を作りたい。そのとき、感性を広げるための道具として楽譜が存在すると思う。楽譜があれば色々な作品と比較できるし、一つの確かな情報源になる。僕は物として楽譜を持っていますので、もっと自由に閲覧できる状態を作りたい。楽譜にアクセスでき、音楽を聴くこともできるような自由な集まりを企画して、純粹な好奇心を注ぎ続けるシステムを作りたいです。

「ありがとうございます。」 ミュッセでは、幅氏のコレクションの中から貴重なピアノ作品の楽譜をシリーズで発売準備中です。どうぞご期待下さい。(文責: 菊池朋子)